

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

# 大阪市内最高峰・鶴見新山の頂へ

## ～徳庵、浜ルートから挑む～



徳庵から古堤街道を北上し、枝切道を抜けて浜へ。旧門真井路を通りながら水郷地帯の歴史に触れた後、鶴見緑地へと参ります。風車の丘まで登ったら、大阪市内最高峰・鶴見新山は目の前です。うなぎ寿司とくるみ餅で腹ごしらえを済ませ、さあ、頂上へ！！

### ① 別品餅

150年の歴史を持つ、くるみ餅を徳庵商店街で販売しています。幕末の頃、生駒の聖天さんへ参詣する人が、店のくるみ餅を口にして、「これは別品や！」と絶賛したことから「別品餅」として売り出し始め、以来、徳庵名物となりました。

### ② 比枝神社

元禄4年(1691)に近江・坂本の日吉神社の分霊を勧請し、山王権現と称しました。境内には幾つもの石灯笼が並び、山王宮と書かれたものがあります。本殿は安永5年(1776)に建立され、神仏分離令を受けた明治2年(1869)に山王権現から比枝神社と改称されました。

### ③ 古堤街道(奈良道)

大坂と生駒山麓を結ぶ道で、古堤道とも奈良道、大和道とも呼ばれていました。かつては深野筋(大和川)の右岸沿いの水辺の道で、公儀橋の一つであった野田橋付近から鯉江川沿いの土手道を進み、蒲生から今福を経て放出の阿運速雄神社南側を経由して今津、徳庵、中茶屋…更に東へと向かう道でした。明暦元年(1655)、新開池の排水を良くするために徳庵から今福まで約3kmにわたって徳庵井路が掘削されると、今福～放出～今津～徳庵に至る堤道は脇道となって野田道や稲田道と呼ばれるようになり、徳庵井路北岸の徳庵堤が古堤街道となりました。徳庵井路は改修工事を終えて宝永7年(1710)に寝屋川と改称されました。

### ④ 野崎詣

野崎の慈眼寺は行基開創と伝えられ、永禄8年(1565)に兵火によってお堂が焼失しましたが、寺は江戸時代に入り再興されました。寛文11年(1671)、4月1日～8日まで25年に一度開扉の観音様を特別に開帳する「野崎詣」で寺運興隆が図られ、野崎詣は元禄・宝永年間(1688～1711)に大流行しました。八軒家から船を利用して寝屋川や鯉江川を通り、徳庵・住道を経由して参詣するコース、古堤街道を陸路で参詣するコースがあり、船上の参詣者と街道の参詣者との間で繰り広げられた「ふり売り喧嘩」という喧嘩は徳庵堤の風物詩となっていました。「ふり売り喧嘩」で勝てばその年は縁起が良いとされ、喧嘩をしても決して怒ってはいけないという決まりがありました。

### ⑤ 中茶屋

大和川付け替え以前、新開池が存在していた頃、中茶屋は池の西縁にあたる微高地でした。古川や門真井路、八ヶ井路などの水路が集まる川舟の往来が多い場所で、古堤街道と枝切道の通る場所であったことから中茶屋、上茶屋、北茶屋などの茶屋がありました。いつしか地名として中茶屋が残り、現在も住所として使われています。

### ⑥ 枝切道

京街道の黒原から南下し、藤田あたりから古川に沿って樟島、浜、中茶屋、徳庵…へと行く道で、中茶屋道標で古堤街道と分かれ、浜の道標で焼野道と分かれます。浜の辺りでは葎が生い茂り、蓮池が多かったようです。

### ⑦ 旧門真井路

門真井路は、門真庄7か村の悪水井路で、焼野から浜を南下し、中茶屋からは横堤、諸口方面に向かって西流していましたが、現在は埋め立てられています。門真井路だけでなく、水郷地帯であった茨田地域には井路が縦横に張り巡らされ、農家2～3軒に一隻所有していた「さんまい(三枚板舟)」と言われる舟底が三枚の板張りになった小舟(長さ約6m、幅約1m)がこれらの井路を行き来していました。

### ⑧ すし浅

茨田名物の一つに、うなぎの箱寿司があります。かつては古川橋から徳庵までの間に7軒のうなぎ寿司屋があったそうで、80年の歴史を持つ浜の「すし浅」がうなぎ寿司の歴史を守り続けています。絶妙な甘さのタレが鰻とご飯を引き立て、黒ゴマによって味の深みが一層増します。金・土・日のみ営業で午前10時～売り切れ次第終了。TEL:06-6911-0659

### ⑨ 古川

鉄道が開通される前、茨田地域の人々にとって古川が主たる交通手段でした。江戸後期頃には存在していたとされる早船と呼ばれた貨客船は、浜から徳庵を経由し、權を使っていた頃は片道2時間30分、発動機を使い始めてからは片道40分を所要して八軒家に到着しました。

### ⑩ 古宮神社

赤曾根神社と称していましたが、大正4年(1915)に古宮神社と改称しました。花博開催を控えた昭和61年(1986)から始まった茨田北地区土地区画整理事業の対象地域となり、南西150mの現在地に移転することとなりました。現社殿の南には馬洗という字名が残っていました。源平の戦いに敗れて敗走する悪七兵衛・藤原景清が、血みどろになった馬を洗ったと伝えられる池があったことに因んでいます。

### ⑪ 鶴見緑地

鶴見緑地は、昭和16年(1941)に大阪府の都市計画として服部・久宝寺・大泉とともに4大緑地の一つとして造成計画が立てられました。ほとんどが田んぼであった鶴見緑地造成地は、翌年より用地買収計画が立案され、昭和20年(1945)8月までに約30万坪の買収を終えていましたが、戦後、GHQによる農地改革の影響を受けて、農民に土地が返還されました。その後、大阪市は昭和37年(1962)に過密都市対策として鶴見緑地造成計画を立てて用地買収を開始し、昭和47年(1972)4月に市民園芸村(農園)、大芝生など11.8haの供用が始まりました。大阪市は市制100周年を8年後に控えた昭和56年(1981)、大阪「花の国際博覧会」(フローラ大阪89)という地方博覧会を計画しましたが、後に日本政府による「国際花と緑の博覧会」構想が出たことから大阪市はその招致活動を開始し、結果として、地方博覧会ではない国際博覧会「国際花と緑の博覧会」を鶴見緑地で開催することが博覧会国際事務局によって承認されました。「花博」は平成2年(1990)4月1日～9月30日までの開催期間中、約2,312万人が訪れました。



**【注意事項】**この地図は「大阪あそび歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。  
**【お問い合わせ】**大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび歩」事務局 電話06-6282-5930 (財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそび歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそび歩」でネット検索を。

大阪あそび歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。